

令和元年6月19日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02217

研究課題名(和文) 前近代日本における病氣治療と呪術の研究

研究課題名(英文) Study of the disease treatment and supernatural beliefs in the premodern times

研究代表者

小山 聡子 (Koyama, Satoko)

二松學舎大學・文学部・教授

研究者番号：80377738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、前近代日本の病氣治療と呪術の変遷について、各自の専門とする時代を中心に史料調査などを行なった。1年に2回から3回の研究会を開き、各自の調査および研究成果を報告し、議論してきた。

本研究では、日本についても、東アジア全体で考えていくべきであるとする認識を持ち、海外の研究者とも連絡を密にしてきました。2018年8月には、中国の浙江工商大学を会場に、国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」を主催した。本研究の成果は、前近代日本の病氣治療と呪術に関して、各自の専門分野から論じた論集を2019年度末までに出版する予定となっており、現在、準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前近代日本の病氣治療と呪術については、史料調査も十分になされておらず、未詳な部分が非常に多い。そこで本研究では、各自の専門分野から史料調査を行い、前近代日本の病氣治療と呪術についての論文を精力的に発表してきた。全体の研究成果については、2019年末出版予定の『前近代日本における病氣治療と呪術』にまとめる予定である。

前近代の日本人の精神世界を明らかにする上で、病氣治療と呪術の研究は不可欠である。とりわけ、治療者として活躍していた僧侶や陰陽師による病氣治療の変遷を論じることによって、精神世界の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I performed historical materials investigations mainly on the times when each person specialized about Japanese disease treatment and the change of supernatural beliefs in pre-modern. I held meetings and reported a survey by each person and results of research and argued.

I did communication thickly and, in this study, I had the recognition that we should think about in the whole East Asia about Japan. And we did communication with the overseas researcher. In August, 2018, I sponsored international symposium "disease treatment and supernatural beliefs in the history of the East Asia" in a meeting place in Chinese Zhejiang Gongshang University. We become going to publish the theses that we lectured on from the specialized field of each person about Japanese disease treatment and supernatural beliefs by the end of 2019 in pre-modern. We are preparing for the result of this study now.

研究分野：歴史学

キーワード：病氣治療 呪術 モノノケ 陰陽師 調伏 東アジア 霊魂 幽霊

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

とりわけ古代から中世前期には、病気の原因はモノノケと判断されることが多かった。モノノケやモノノケによる病気への治療法について検討することは、古代・中世の精神世界の一端を論じることにもつながり、非常に重要である。それにもかかわらず、モノノケに関しては、主に源氏物語研究者によって行われてきており、歴史学の領域からはようやくはじめられたばかりである。モノノケ研究は立ち遅れており、僧侶の呪術や憑依現象に関しても、現代の感覚に即して単純なかたちで理解されがちであった。前近代の病気治療における呪術については、文学のみではなく、歴史学や宗教学などの方面からの論究も必要である状況である。

2. 研究の目的

前近代における病気治療と呪術について、明確にしていく。具体的に述べると、陰陽師による病気治療、さらには僧侶による病気治療がどのように行なわれていたのかを、具体的に明確にしていく。

3. 研究の方法

毎年2回以上研究会を開催し、全体のテーマに沿った各自の研究発表をし、それぞれの成果を報告する。また、東アジア全体で日本における病気治療と呪術について検討していく必要があると考えるので、中国の浙江工商大学で国際シンポジウムを開き、中国と日本における病気治療と呪術の比較研究も行ない、研究を深めていく。

4. 研究成果

当初の予定通り、1年に2～3回ずつ研究会を開き、各自の調査研究の報告をし、最終年度には中国の浙江工商大学で国際シンポジウムを主催した。陰陽師や僧侶による病気治療と呪術について、史料調査を進め、個別具体的に実態を明確にすることができた。研究成果については、2019年度末に『前近代日本における病気治療と呪術』として論文集を出版する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計14件)

水口幹記「唐代印度天文学・呪術的影響与天竺僧人菩提僊那的渡日—以日本奈良时期对印度的認識为中心」気賀澤保規・孫英剛主編『佛教史研究』(新文豊出版公司)査読有り、2018年、pp197-224

水口幹記「關於伝到日本的術数書、占書」南京大学古典文献研究所主編『古典文献研究』、査読有り、2018年、pp51-74

斎藤英喜「神楽の仏教 中世神楽の現場から」『現代思想』46 16、査読無し、2018年、pp368-pp378

北條勝貴「異類の語る仏教伝来 『豊後国風土記』頸峯地名起源譚の背景を読む」『現代思想』46 16、査読無し、2018年、pp339-pp355

小山聡子「靈魂を成仏させる親鸞 『高田親鸞聖人正統伝』の伝奇性」『現代思想』46 16、査読無し、2018年、pp390-pp404

斎藤英喜「中世芸能と荒神信仰 中世神楽の現場から」『季刊誌 悠久』155、査読無し、2018年、pp48-pp63

北條勝貴「巨樹から生まれしものの神話 御柱の深層へ」『アジア遊学』228、査読無し、2018年、pp195-pp216

小山聡子「中世前期の病気治療における神とモノノケ」『歴史評論』816、査読無し、2018年、pp19-pp30

大江篤「怪を語れば‘ふるさと’に至る 怪異学と地域創生」『尼崎市立地域研究史料館紀要』117、査読無し、2017年、pp50-pp55

大江篤「日本古代の「神」認識と卜占」『西洋史研究』17、査読無し、2017年、pp17-pp23

佐々木聡「越南本『天元玉曆祥異賦』について」『汲古』72、査読有り、2017年、pp46-pp52

佐々木聡「清末刊『張天師法病書』と近世における三十日病占の展開」『人文学論集』36、査読有り、2017年、pp1-pp22

佐々木聡「釜鳴をめぐる怪異観の展開とその社会受容」『人文学論集』35、査読無し、2017年、

佐々木聡『『白沢精怪図』再考 S.6261 を中心として』『敦煌写本研究』11、査読有り、2017年、pp57-pp72

〔学会発表〕(計 21 件)

- 大江篤「卜部と疫病 卜占の技法と神祇祭祀」東アジア恠異学会、2019年
- 斎藤英喜「折口信夫の「陰陽師/陰陽道」研究と近代神道史」陰陽道史研究の会、2019年
- 赤澤春彦「院政期・鎌倉期におけるモノノケの病氣治療と陰陽道」東アジア恠異学会 2018年
- 赤澤春彦「日本中世における病・治療と陰陽道」国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」(浙江工商大学) 2018年
- 山田雄司「古代・中世の死と霊」国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」(浙江工商大学) 2018年
- 山田雄司「生と死の間 靈魂の観点から」二松学舎大学東アジア学術総合研究所共同研究ワークショップ「幽霊の歴史文化学」2018年
- 小山聡子「幽霊ではなかった幽霊 古代・中世の実像」二松学舎大学東アジア学術総合研究所共同研究ワークショップ「幽霊の歴史文化学」2018年
- 小山聡子「平安時代における物気の表象と治療」国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」(浙江工商大学) 2018年
- 佐々木聡「三十日病占から六十干支病占へ」国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」(浙江工商大学) 2018年
- 牧角悦子「ヤマタノオロチと九尾の狐 日中比較神話学序説」国際ワークショップ「日本漢文学の射程 方法と達成」(香港城市大) 2018年
- 赤澤春彦「中世における安倍晴明像の再生産」陰陽道史研究の会、2018年
- 斎藤英喜「博士・神職・大夫 土佐いざなぎ流の神楽と祈祷」日本民俗学会談話会、2018年
- 佐々木聡「明清時代の占病文献とその流布状況 占夢書・通書・日用類書・通俗道教との関わりから」汎アジア科学文化論班研究会、2018年
- 大江篤「怪・異・妖 日本古代の恠異認識」東アジア恠異学会、2017年
- 佐々木聡「近世社会における発病書の受容と展開 元刊『陰陽備用選択成書』疾病門を起点として」日本中国学会、2017年
- 佐々木聡「鬼神を表す語彙を考える」東アジア恠異学会、2017年
- 水口幹記「祥瑞災異と改元 醍醐朝の延長改元を中心に」歴博国際シンポジウム「年号と東アジアの思想と文化」2017年
- 赤澤春彦「日本中世における改元と陰陽家」歴博国際シンポジウム「年号と東アジアの思想と文化」2017年
- 北條勝貴「環境文化史から恠異を問う」立教大学日本学研究所公開シンポジウム「前近代」東アジアにおける恠異と社会」2016年
- 水口幹記「蘇民将来札考」立教大学日本学研究所公開シンポジウム「前近代」東アジアにおける恠異と社会」2016年
- 佐々木聡「災異と禳災のポリティクス」立教大学日本学研究所公開シンポジウム「前近代」東アジアにおける恠異と社会」2016年

〔図書〕(計 14 件)

- 斎藤英喜『折口信夫 神性を拡張する復活の喜び』ミネルヴァ書房、2019年、p.400
- 小山聡子『往生際の日本史 人はいかに死を迎えてきたのか』春秋社、2019年、p.244
- 小山聡子・松本健太郎編『幽霊の歴史文化学』思文閣出版、2019年、p.344
- 山田雄司「生と死の間 靈魂の観点から」小山聡子・松本健太郎編『幽霊の歴史文化学』思文閣出版、2019年、pp3-pp25
- 近藤瑞木「怪を語れば恠至る」篠原進監修『新選百物語 吉文字屋怪談本 翻刻・現代語訳』白澤社、2018年、pp200-pp203
- 牧角悦子「“花開” 或是 “花笑” : 中日文化交流的一个側面」中国社会科学院歴史研究所・日本東方学会・黄河文明伝承與現代文明建設河南省協同創新中心編『第九屆中日学者古代史論壇文集』2018年、pp70-pp80
- 斎藤英喜「変装する岩戸神楽譚 「神話と文学の発生」をめぐって」岡田莊司 編『古代文学と隣接諸学 7 古代の信仰・祭祀』竹林舎、2018年、pp141-pp167
- 北條勝貴「野生の声を聴く 文化 の一断面 「百恠図」と狐鳴卜占」岡田莊司 編『古代文学と隣接諸学 7 古代の信仰・祭祀』竹林舎、2018年、pp494-pp523

大江篤「日本古代の「怪」と「怪異」 「怪異」認識の定着 」東アジア恠異学会編『恠異学の地平』臨川書店、2018年、pp11-pp39

赤澤春彦「中世都市鎌倉の災害と疾病」安田元彦編『自然災害と疾病』竹林舎、2017年、pp405-pp430

大江篤「平安時代の「怪異」とト占」安田元彦編『自然災害と疾病』竹林舎、2017年、pp281-pp307

佐々木聡『復元白沢図 古代中国の妖怪と辟邪文化』白澤社、p.174

北條勝貴「牽かれゆく神霊」斎藤英喜・井上隆弘編『神楽と祭文の中世』思文閣出版、2016年、pp116-pp138

北條勝貴「初期神仏習合と自然環境」水島司編『環境に挑む歴史学』勉誠出版、2016年、pp119-pp153

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：大江 篤

ローマ字氏名：Oe Atsushi

所属研究機関名：園田学園女子大学

部局名：人間教育学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10289051

研究分担者氏名：近藤 瑞木

ローマ字氏名：Kondo Mizuki

所属研究機関名：首都大学東京

部局名：人文科学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：20305402

研究分担者氏名：斎藤 英喜

ローマ字氏名：Saito Hideki

所属研究機関名：佛教大学
部局名：歴史学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：40269692

研究分担者氏名：水口 幹記
ローマ字氏名：Mizuguchi Motoki
所属研究機関名：藤女子大学
部局名：文学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：40339643

研究分担者氏名：竹下 悦子（牧角 悦子）
ローマ字氏名：Takeshita Etsuko (Makizumi Etsuko)
所属研究機関名：二松学舎大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：40181614

研究分担者氏名：山田 雄司
ローマ字氏名：Yamada Yuji
所属研究機関名：三重大学
部局名：人文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90314103

研究分担者氏名：北條 勝貴
ローマ字氏名：Hojo Katsutaka
所属研究機関名：上智大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90439331

研究分担者氏名：赤澤 春彦
ローマ字氏名：Akazawa Haruhiko
所属研究機関名：摂南大学
部局名：外国語学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：90710559

(2)研究協力者
研究協力者氏名：佐々木 聡
ローマ字氏名：Sasaki Satoshi

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。